

会派視察報告(創政会)

十一月九日から十一日の間、関東方面で「二期制導入」(野田市)、「福祉トータルサポートセンター」(栃木市)、「中心市街地活性化対策」(小山市)について行政視察を行った。

野田市では平成十六年から小中学校で二期制を導入し、次のような成果がみられたそうである。授業時間が増え、長いスパンでの学習計画が可能となった。学校や地域の特色を生かした豊かな体験学習など特色ある教育活動が推進できた。長い休みの前や、休み期間中の充実した教育活動で先生と子ども、先生と保護者がじっくり向き合える時間が増えた。(全般的に学力が向上した)

栃木市では利用者が生涯を通じて一貫した福祉サービスが受けられるように福祉トータルサポートセンターを設置している。今までは専門別に分化されていたが、関係する各機関の窓口、施設、諸制度などの連携交流を促進することにより一人の利用者を中心に、制度や仕組みにとらわれず適切なサービスを提供

できるようになった。

小山市での「中心市街地活性化対策」については、中心市街地の空き店舗への新規出店に対して促進事業補助金の交付を行い、街の活性化を図っている。その他吸引力を高める施策、快適に過ごせる環境整備、来やすくなる対策、定住人口を増やす対策等、小山市らしさを出した街づくりを目指している。

会派視察報告

(近未来春日塾)

近未来春日塾は、平成十七年七月六日から八日までの日程で北海道網走市、NPO法人・夢の樹オホーツク、北見市の行政視察を行った。

網走市では、同市が取得している環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」について調査を行った。

環境保全のための、目標設定と行動計画、実施と見直しが厳しくシステム化され、この繰り返しにより、環境負荷の低減が図られていた。

NPO法人・夢の樹オホーツクでは、「地域通貨制度」について調査を行った。ここでの地

域通貨「億緑券」は、相互扶助のボランティアを目的としながら、偶然にも経済効果も生まれており、大変魅力的なものである。

北見市では、「北見市オンブズマン制度」について調査を行った。この制度は市政に対する苦情について、利害があれば市民に限らず、市外の方でも苦情申請ができ、弁護士等司法の専門家であるオンブズマンが、公正中立な立場で調査を実施し、必要があると認めるときに、市に意見を述べ、勧告をし、市民の権利や利益を守る制度である。今回視察を行った内容は、現在春日市においては、いずれも導入されておらず、今後の研究課題として、大変有意義なものであった。さらなる春日市政の発展のためにも、引き続き調査研究を行っていききたい。



次回

三月定例会会期日程(予定)

- 一日 本会議(議案の上程、提案理由の説明など)
 - 六日 本会議(議案質疑など)
 - 七日 各常任委員会(議案審査)
 - 八日 各常任委員会(議案審査)
 - 九日 各常任委員会(議案審査)
 - 十日 予算審査特別委員会
 - 十三日 予算審査特別委員会
 - 十五日 本会議(一般質問)
 - 十六日 本会議(一般質問)
 - 十七日 各常任委員会(議案審査のまとめ)
 - 二十日 予算審査特別委員会
 - 二十二日 各常任委員会(閉会中調査事件の調整など)
 - 二十三日 本会議(委員長報告、質疑、討論、採決)
- 都合により変更になる場合があります。